

6) 美ら島自然学校の利活用

仲松由美子¹・国広潮里¹

キーワード：美ら島自然学校、地域連携、廃校跡地利用、地域活性化、ウミガメ

1. はじめに

当財団では、平成 21 年に閉校した旧名護市立嘉陽小学校の跡地利用事業者として、平成 26 年に名護市と賃貸借契約を締結し「美ら島自然学校」として、平成 27 年に運用を開始した。正面に太平洋、後方を山々に囲まれ、古くからの地域文化が継承された集落、またグスク時代の遺跡が位置する、豊かな自然や文化遺産に恵まれた立地条件を活かし、普及啓発を目的とした各種催事の開催場所、および東海岸の動植物・歴史文化の調査拠点としての活用を図るとともに、地域住民と連携した事業展開を行った（写真-1）。



写真-1 美ら島自然学校（旧嘉陽小学校）全景

2. 実施結果

「太平洋を望む豊かな環境で 誰もが学べる自然学校」として、幅広い年齢・知識層の方を対象とした事業展開を図った。主な事業は 1) 一般向け事業、2) 調査研究利用、3) 学校向け事業の 3 つに分かれている。令和 5 年度の施設利用者の総計は 10,747 名（R5 年度比 96.6%）であった。

1) 一般向け事業

ゴールデンウィークと春休みの特別企画として、ウミガメ飼育施設を活かした有料体験プログラムを実施、それぞれ 156 名と 74 名の参加があった（写真-2）。参加者にアンケート等の聞き取りを行ったところ、本イベントに参加したきっかけが、過去に外部団体主催のイベント等で美ら島自然学校を知ったことがきっかけとなったとの答えが複数見られた。今後も新規参加者を獲得できるよう、美ら島自然学校の活動と更なる告知の強化を図る。

施設見学および校庭利用者は 6,111 名（前年度比

90%）で、施設見学者の 396 件から聞き取りを行った。県内からの来校者は約 62.6%と半数以上を占め、美ら島自然学校を知ったきっかけは、「NHK ドラマ（約 15.2%）」が最も多く、「たまたま通りかかった（約 14.6%）」が次点であった。2 年前に放送された NHK ドラマの影響力は未だ大きい事が窺えた。年度の後半からは、SNS で見て知ったという来校者が増えており、今後は、美ら島自然学校独自の SNS アカウントを作成し、積極的に情報を発信することで、利用者数の増加を目指したい。



写真-2 春休みイベントの様子

2) 調査研究利用

構内に設置したウミガメ飼育施設では、海洋博公園ウミガメ館生まれの幼体の飼育調査を継続した。また、7 月から 8 月にかけて前年度生まれの幼体を標識放流し、回遊調査に供した。総合研究所各課室と連携し、ウミガメ類の産卵痕跡調査、ストランディング調査、環境 DNA 調査を行った。環境 DNA 調査については、一般向けに講習会を開催し、実際に行っている海岸での調査を公開した。それぞれの調査結果は、一般向け催事などの資料として随時活用したほか、校内へ展示することにより、近隣の自然環境の現状を来校者へ周知した。

また、外部研究者による施設利用として、名護市教育委員会による嘉陽グスク発掘調査、および県内大学等の研究機関による生物調査拠点としての利用を受け入れ、延べ 360 名の利用に供した。

地域の文化調査として、伝統行事や各活動に積極的に参加し、地域住民との交流から情報収集を行い、自然学校での展示リニューアルに活かした。

また、植物研究室と連携し、校内花壇にキク科のベニバナを産地ごとに播種、成長の比較調査を行な

¹ 普及開発課

った(写真-3)。今後は植物関連学習プログラムへの活用を目指す。



写真-3 校内花壇ベニバナ

3) 学校連携事業

県内北部地域の小学校や教育委員会等と連携し、年に3回以上の学習を継続する「通年学習プログラム」および1~2回完結型の「短期学習プログラム(出前授業)」を展開した(詳細は「やんばる環境学習」参照)。また、県内修学旅行等の利用が8件377名(前年度比60.5%)(写真-4)を記録、当該学校へは学習の振り返りができるワークシートを作成し配布した。



写真-4 県内小学校による修学旅行利用

3. その他

1) 地域連携

(1) 民泊の受け入れ

地域の民泊事業者と連携し、県外中高生および大学生等への施設案内353名に対応した。地域の海岸に野生のウミガメが産卵にくること、旧嘉陽小学校でのウミガメ学習の取り組みが現在の美ら島自然学校へ継承されていることなどを説明し、ウミガメの生態や地域環境について周知することができた。

(2) 地域の施設利用

久志駅伝大会では1,008名の利用があった。また、グラウンドを利用して、地元区民による嘉陽区安部区の合同区民運動会が開催された(写真-

5)。さらに、元日の初日の出見学者の駐車スペースとしてグラウンドを開放し、車輛の誘導および嘉陽共同店への案内など地域住民との連携を図った。



写真-5 嘉陽区安部区合同区民運動会

(3) 地域連携型催事

これまで新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により開催を見送っていた「第3回ウミガメまつり」を約4年ぶりに開催した。久志地域の魅力を発信することを目的に開催しており、美ら島自然学校からはウミガメやヤシガニなどの身近で見られる生物の観察会を実施した。地域からは藍染体験やSUP体験、手づくり小物の実演販売や飲食店などが出店し、延べ659名の来校があった(写真-6)。



写真-6 第3回ウミガメまつり

2) 施設管理

施設の劣化・不具合箇所の点検を月1回、日中の施設内巡回点検の実施と夜間は防犯カメラとセキュリティシステムにより機械警備を行った。

また、消防訓練のほか、職員の安全教育ではAED取り扱い等の応急手当講習を実施し、緊急時における対応について訓練を行った(写真-7)。



写真-7 応急手当講習

4. 外部評価委員会コメント

全体的にみてよくやっている。地域住民との交流もできているようだ。また、昔に嘉陽で行われていた地域の行事もあるはずなので、それを掘り起こして再現するのも面白い。また、ウミガメなど人気がある動物だけでなく、タイワンハブの定着など、沖縄の自然に迫っている問題も啓発していただきたい。
(亀崎顧問：岡山理科大学教授)